

# 冬号 みどり通信

発行 21世紀記念公園 麓山の杜  
連絡先 〒963-8876 郡山市麓山 1-16-17  
TEL 924-2194 FAX 924-2195

## 21世紀記念公園内の様子



園内も冬仕様になり、サザンカとパンジーが園内を彩っています。花や葉のない木々も、花芽が付いていました。木によって花芽の色や形が違いますので、散策の時にご覧ください。

## 【みどり講習会】

樹木医（樹木のお医者さん）から樹木の管理方法や注意点などを教えていただきます。

場所：とんがりふれあい館ホール  
対象：記念樹交付申請者及び希望者  
日時：平成31年3月3日(日)  
10:00～12:00  
内容：樹木の植替えについて  
\* 受講料無料、予約不要です。  
お気軽にお越しください。



## My ガーデニング

・・・季節のワンポイントアドバイス

### 【水やり】

気温が低い冬の間は、蒸散が少ないので、植物は乾燥しにくいと思われがちですが、雨や雪が少ないと寒風によって乾燥が進み、弱ってしまいます。特に秋以降に植え替えた場合は、水不足に注意しなければなりません。冬に乾燥した寒風が強く吹き付ける場所は、落葉樹でも樹木から水分が奪われ、枯れてしまう場合があります。それを防ぐには、防寒を兼ねた防風対策が必要です。この時期の灌水(水やり)は、暖かい日を選んで午前中に行います。できれば、あげた水が凍らないようにします。根元に腐葉土やワラを敷くと乾燥が抑えられます。鉢植えの場合は、特に水やりが必要で、冬の寒さを嫌う植物の場合は、少し温かい水をかける必要があります。根だけではなく全体にかけるようにします。この寒い季節の水やりは面倒ですが、他の時期と同じように大切な作業です。

### 【植替え】

多くの樹木に共通している良い土壌は、赤玉土6～7割、腐葉土3～4割が基本用土です。土壌は透水性、通気性、保水性、保肥力などが大切です。市内で多く利用される山砂は、決して良好な土壌ではありません。この季節は厳寒期を除き、落葉樹の植替えの適期です。葉が開きだす前までには済ませます。ただし、カエデ類、ボケ、ポタン、シャクヤクはすでに遅すぎます。常緑広葉樹は、早くとも3月下旬まで待ちます。マツ類などの常緑針葉樹は、厳寒期以外は可能です。ただし、適期は春先です。麻布と縄で根巻された樹木は、それを外さずに植え込みます。鉢植えの場合は、少し土を落して根を切り詰めて植えます。植穴の大きさは、根巻した鉢の大きさの倍くらいの広さと深さを基準とします。そして十分に水をあげます。また、風で樹木が動かないように支柱を設置します。



**【肥料】**

これからの時期に有機質緩効性肥料を施します。これを寒肥といいます。この肥料の代表的なものは、『骨粉入り醗酵済み油粕』です。特徴は、肥料成分が高くなく、ゆっくり長く効き、微生物も増え、土壌も良くなっていきます。果実をつける樹木は、糖度なども上がります。そして、与え過ぎによる害も少ないです。郡山市で多く使われている山砂でも、流亡が少なく植物に有効に利用されます。寒肥をあたえると、その年の葉の色や伸びに大きな違いがでます。時期は、2月から3月にかけてベストです。方法は、枝の伸びている下近辺を輪状に掘って埋め込むのが良いです。そうする事により、土が柔らかくなり、細い根が切られ、そこから新しい根も伸びます。このように円を描くように掘ってもいいですし、面倒な時には何か所か壺穴状に掘っても良いです。深さは30cm位にします。その時に完熟腐葉土などを一緒に入れるのも良いです。掘る事が困難な時には地面に置き肥をしてもかまいません。量は樹木の大きさによって変わります。土壌条件が悪い時や、樹木の成長が芳しくない時は、ぜひ行ってください。化成肥料はこの時期には向きません。

**「天地返し」を聞いたことがありますか？**

この寒い時期に土を掘り起こして寒さにあてて土を風化させることです。固い粘質土でも崩れて柔らかくなります。また、病害虫や雑草の根も退治する事が期待できます。春先に草花や野菜などを植える予定の場合も今から準備して置くのと良いです。水はけが悪いと思われる時は一緒に暗渠排水あんきょはいすいも行います。

**【病害虫】**

病気は予防、害虫は早期の退治が基本です。その為には落ち葉は綺麗に掃き集め、処分します。落ち葉が病原菌の繁殖場所になり害虫の越冬場所になるからです。この寒い時期しか使えない薬剤もあります。石灰硫黄合剤やマシン油乳剤です。厄介な病害虫に対して効果がありますが使用方法が少し難しいです。

**（カイガラムシ類）**

この時期に薬剤で退治する時、使用するのがマシン油乳剤です。この薬剤は、油成分で虫本体を包み込み、窒息死させます。退治しにくい害虫なので、この時期に薬剤散布かブラシなどで、そぎ落としておきます。そうすると、すす病も発生しにくく、果樹類も綺麗な実をつけます。石灰硫黄合剤も効果があります。

**（アブラムシ類）**

マツ類には群生して越冬しています。果樹類やカエデ類は、芽吹く時に発生します。カイガラムシと同様に他の病害も発生するので、この時期に退治します。

**（ケムシ類）**

幼虫で越冬しているマツカレハなどは、殺虫剤で退治し、卵の場合はすぐに取り除きます。

**（病気）**

病気の枝葉は、取り除いておきます。また、殺菌剤を滴り落ちるくらいに散布します。

**【剪定】**

常緑広葉樹の剪定は4月まで待ちます。また、キャラボクやヒバ類なども同じです。マツ類は、透かす剪定は厳寒期を除けば行えます。落葉樹は、展葉前までが適期となります。ただし、カエデ類は切り口から樹液があふれ出て、樹勢が弱くなるので行わない方が無難です。落葉樹は、太い枝を切る事も可能ですが、切り過ぎて樹勢が弱くなったり、樹形が乱れては、剪定の意味がありません。また、切り口は癒合剤などで保護します。

**【春の開花】**

昨秋から気温が高かったため、早咲きの梅やロウバイは、すでに開花しています。では、今年のソメイヨシノの開花はどうか？

ソメイヨシノの開花には、気温が大きく関与します。まず、冬期の寒さが必要です。寒さによって休眠打破が行われ、光合成や水分の吸収が始まります。打破後の暖かさにより、開花時期が決まります。それが積算温度という数字で表され、開花時期が予想されます。